

ご加入者の声をご紹介します！

(農業共済新聞・広報紙「NOSAI広島」等から転載)



庄原市 藤原 富雄 さん

想定外の減収でも助かった

水稻4.3畝の栽培と肉用牛5頭を飼育しています。

2020年の6月に入院することになり、農繁期にもかかわらず水稻の管理が思うように出来なかったため、想定外の大きな減収になってしまいましたが、保険金を受け取ることができ、非常に助かりました。

農業はさまざまな要因に左右され、天候は自分の力ではどうにもなりません。新型コロナなど新たなリスクもある中で農業を維持するため、収入保険への加入は、私にとって“安心切符”となっています。私の経験を通して、周りの農家にも収入保険を勧めています。

重なる減収でも安心

水稻約36畝とキャベツ、トマトなど野菜4.4畝の二本立てで営農しています。

収入保険は出荷先にかかわらず加入でき、販売収入が補償されるのが魅力です。

2021年と22年に、獣害や病害、コロナ禍の影響による米の価格低下など、収入減少の要因が重なったときに補償があったことで安心できました。

数年前から後継者育成のために技術を継承し栽培管理を任せています。近年は、異常気象で平年どおりにいかない年が増えています。思いがけない収入減少に対応できる収入保険は必要だと考えます。



北広島町
農事組合法人 うづつき
代表 小川 和夫さん



三原市 中村 淳さん

営農を続けるための備え

野菜1畝とかんきつ15畝を栽培しています。

東京都出身で、11年から茨城県で農業経営をしていましたが、22年4月に佐木島に移住し、地域おこし協力隊と並行して農業をしています。瀬戸内特有の気候や真砂土での野菜作りが心配だったので、両県分の経営を合わせて収入保険に加入しました。

22年に茨城で豪雨や台風による被害で収入が半分以上に。資材費や肥料代が高騰していたので、保険金を受け取ることができて助かりました。

今後も佐木島で規模を拡大したいと考えています。将来にわたり営農できるよう収入保険で備えたいです。

収入の補償に安心感

水稻244㍓、ナシ60㍓を栽培しています。水稻は令和2年にウンカの被害、令和3年水害に遭いました。ナシは2年連続の霜害に加え、コロナ禍での観光ナシ園の集客不足による減収で保険金を受け取りました。

収入保険は税務申告の書類を提出すれば保険金が計算され、支払いが早いので助かります。実際に保険金をもらったときは、「こんなにもらえた」という印象で、妻とも「収入保険に救われた。加入していることでストレスが軽減される」と話しています。



安芸高田市 森川 和正さん



三次市作木町
株式会社 高丸農園
総務部長 中村 真佐美さん

つなぎ資金で経営続行

ナシを約2.8㍓栽培しています。令和2年に霜の被害と獣害で、収入が3分の1ほどになってしまいました。ここまで大きな被害は初めてで、収入保険に入っていなければどうなっていたか。

つなぎ資金の対応が早く、次の年の準備ができ、経営を続けられました。自然が相手なので、明日何が起こるか分かりません。農業を営む上では、保険もその一部であり大事なものです。また、収入保険の基準の金額は、それを超えようというモチベーションにもなっています。

安値や天候不順も安心

トマトを栽培しています。令和3年は、出荷当初の安値や夏場の雨量・曇天の影響で売り上げが落ち込み、保険金をもらいました。加入しておけば、自身の病気やけがなどで収入が減ったときでも、確実にお金を回すことができます。

組合の38人のうち、11人が20～40代です。若手は施設費用の返済などもあるので、収入が減ると自分の手取りがなくなるだけでなく、そのお金を工面しなくてははいけません。収入保険には絶対に入っておくべきだと思います。



神石高原町
まる豊トマト生産出荷組合
組合長 橋本 英治さん

収入保険加入者限定！

初めて購読いただく方は、今なら1年間**半額(2,760円)**で購読いただけます！

収入保険制度の解説はもちろん、全国各地で多彩な農業経営をされている方々の紹介や全国の収入保険加入者の声もたくさん掲載しています。

毎週水曜日発行 年間購読料5,520円



お申込み
は最寄りの
NOSAIまで